



お 夫 だ 忠 せ 関

## 問 湯沢町の定住住民を増やす対策を

**問** 湯沢町は若者を雇用する企業が少なく、若者は湯沢で成長しても都会に出てしまいます。

そしてこのまま今の現状が進むと、高齢者が多くなつていき、地域の存続が危ぶまれていく状況になってきます。さらに後継者がいなければ高齢になって生活が難しくなると、住み慣れた湯沢を離れ子供のいる所に移つてしまい、ますます湯沢の住民は減少してしまいます。若者が湯沢町に定住出来るか早急に考え対応する事が必要だと思います。

若者を雇用できる環境を作る事がなによりも必要だと思いますが、今日は別の視点で提案をしたいと思えます。通勤工リアとしてアピールし受け入れ

を考えてはどうかと思います。

**答** 新幹線通勤者に町から助成金制度を設定して、定期券購入者の個人負担を少なくして一人でもまた多くの人が湯沢に定住できるようにしていただきたい。湯沢町に多くの若者が住めるようにしていくには通勤工リアとして助成金制度を実施していただきたい。町長の考えを求めます。

**答** スキー場をはじめとする観光産業の不振による労働者転出、出生者数の減少等が原因と考えられる。湯沢町の基幹産業は観光である三次産業にかかわる人は町民の8割といわれている観光産業の低迷から現状がある。新幹線通勤者に対する定期券購入の助成費を提案したい

たが税制の落ち込む中で新規の助成制度の創設は非常に難しい。在来線利用者、高速道路利用しての通勤者の事も考えなくてはならない。

各企業も通勤手当を支給し定期券購入していると思われる。平等の観点も含めてこの導入を見送ってきた。24年度町税制は今年度比較2億5000万円減少する見込みの中で新規助成は大変難しい。助成制度の創設よりもJR東日本に対して通勤通学定期の減額をお願いしてゆきたい。

この件は強力に進めてゆきたい。湯沢町に観光外の職種を受け入れたい。他に事業の導入してゆき湯沢で働ける職場を作つてゆきたい。

## 問 夏、観光の強化を

**問** 湯沢町は冬期観光が終わると一年の観光営業が終わったかのように感じられます。

夏期の来町する観光客が激減しています。夏期観光強化を進めていかなければなりません。

これからの夏期観光に訪れるお客さまに自然が豊かな環境を活用し提供する事が必要と思います。各地域にある川の流れや自然林をどのように活用していくか、提供してい



るか検証していく必要があると思います。森林の中を散策すれば体もリフレッシュし森林浴で癒され、森は私たちにさまざまなものを与えてくれます。豊かな森林資源に恵まれている湯沢の森をもっと知って楽しめるようにしお客様を迎え入れるようにしてはどうか。

湯沢地区と浅貝地区標高差の違うなかで早春期も違いがあります。上手に活用して森林セラピーロードをそれぞれの地域に設定する事が出来る環境にあると思えます。

湯沢町は観光立町宣言をしている夏観光にも真剣に取り組んでいく必要があると思えます。

町観光協会を中心に各観光協会に働きかけをしていただき指導していただきたいと思いますが町長の考え方をうかがいます。

**答** 冬期観光に偏った状況があると思えます。町としても通年観光をめざしたい。

湯沢町には夏場いろいろな観光施設があると思いますが、湯沢町観光協会をはじめ各観光協会が中心になって森林セラピーロードの整備など作るようであれば町も積極的にやっていきたい。来年の予算に森林インストラクター研修費の予算を計上します。

若い人を育てていきたい、旧三国街道の対応を国の関係機関に話していく。三国峠の整備、三俣から二居の三国街道を良く考えていただきたいと国に話している。フジロックの森、環境を大事にしながらそれらを使い資料やパンフレットに使うためのペーパーを作つていきたい。フジロックの森を前面に出しながら湯沢町は観光、環境健康を前に出しながら取り組みたい。